

可見元代石刻拓影目録稿・七続（至正11年以降）完

可见元代石刻拓影目录稿・七续（至正11年以降）完

森田 憲司*

Kenji MORITA

「可見元代石刻拓影目録稿」の7回目として、元朝順帝の至正11年以降の部分を掲載させていただく。年記のある元代石刻拓影については、これで一段落となる。ちなみに、『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』では、元朝3巻のうち、3冊目第50巻の後半にあたる。今回収録した石刻は約160件となった。順帝期は、『元史』編纂上問題の多い時期であり、「同時代」史料である石刻の有効性が期待できるはずなのだが、思ったよりはこの時期の石刻数は少なく、至正前半と比べるとむしろ減少している。この現象の検討もこの時代についての解明の1つの材料となるかもしれない。

さて、この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることができる元朝石刻についての目録であり、その作成の趣旨については、第1回目（本誌17号掲載）の冒頭に書いた「この目録について」を参照していただきたい。

一方で、この作業をスタートして以後に、新たに入手可能となったり、目にするのできるようになった石刻関係書は少なくない。「継続性の維持」を重視して採用を手控えるのが本筋ではあるが、地域単位の刊行物が増え、所収の資料の中に他の文献には見えないものが少なくないことを考えて、あえて増入することとしている。

それとともに、第4回目録から編集の方式に若干の修正をおこなった。その内容を語句の補正を加えて再掲する。また、「凡例」のうち変更・増補のある箇条の文末に、★を付した。

対象書目の増加のほかに、改めた点は次のとおり。

1つは、「題名・題刻」の問題。

曲阜の孔廟にある「参謁刻石」のようなものもあるが、「題名・題刻」の多くは野外、とくに「摩崖」の形で刻されていることが少なくない。最近ではこの種のものについての資料集の出版が増えてきているので、この目録でも収録対象として本腰を入れることとした。刻者の名前を中心とした短いものがほとんどで、史料として見れば、「使える」余地は少ないものではあるが、石刻であることに違いない。また、題刻の資料集の多くが写真であり、「拓影」でないことも問題と言えなくはないが、明瞭に読み取れるものであれば、採録することとする。むしろ、年代の確定、すなわち干支のみのものの比定や後刻、再刻・偽刻の検討が課題として残り、さらには自身でタ

イトルを持たないものが大部分ゆえに、命名の方式に考えるべきものがあると思う。現時点では人名と必要な場合に小地名を付しているが、これでいいのかは、今後も考えていきたい。

なお、写真に関しては、明瞭に読み取れる写真を採録の対象とすることは、題刻以外でも同じである。ただし、あまりに不鮮明なものや、『三晋石刻大全』のように部分写真のみで、全体が読める写真が掲載されていないもの、巨碑で個々の文字までは読み取れない写真（や拓影）を掲載する文献などは、この目録の対象とはしていない。例えば、『三晋石刻大全』の洪洞県巻は多くの元代石刻を含むが、部分写真・部分拓影のみのもも多く、それらは趣旨に反するので割愛した。結果として同一書に掲載されていながら、この目録では採用不採用が生じることとなった。なお、私どもが刊行している『13, 14世紀東アジア史料通信』では、新刊金石書について、全体拓影のないものや録文のみのもを紹介しているので、新刊についてはそちらをご参照いただければありがたい。

2つ目には、これまでも繰り返し述べてきた石刻の命名の問題。これには検討すべき点が多い。筆者の考えを、旧稿にもとづいて再説する。

第一に、新たに命名するのか、原石にあるタイトルをそのまま取るのかが問題となる。これについては、一長一短があり、後者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけではその石刻の内容を把握しにくく、実務性に劣る。かつて「中国石刻菁華」（北京図書館HP）においては、目録での表示は簡潔な名称を命名し（拓片題名）、データとして原石にある表記を注記していた（根拠題名）。しかも、検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示されるという方式をとっていて、これについては、以前に本稿においても、合理的な方法ではないかと紹介した。しかし、やがて「其他題名」という項目に代わってしまい、新収の石刻については、それも入力されていない。煩瑣なるがゆえであろうか。ただし、このサイトには問題のあることは後述する。

一方、国内の公刊された拓本目録で一番整っているのは、『東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録』（2002）であるが、この場合、凡例の標題の項に「本文頭題もしくは碑額題を標出した」とあり、さらに「文頭原題」の項を設けている。これも穏当な方式ではある。ただし、標題として何を用いたのかについて、個々の項目で注記されてはいない。おそらくは、頭題（ここで言う「首題」）を標題に使用した場合はあらためて何も注記しないということなのだろうが、その旨の記述は見当たらない。最近になって『北京石刻芸術博物館蔵石刻拓片編目提要』（北京石刻芸術博物館編 学苑出版社 2014）や『北京大学図書館蔵歴代墓誌拓片目録』（北京大学図書館金石組他編 上海古籍出版社 2013）のように、明示された目録記述の原則に基づく目録の刊行が続いており、これらを比較対照することによって、命名方式に限らず、統一された目録記述の方式を確立する必要があるだろう。

命名の方式については、今後とも検討していきたいと考えているが、もし新たに命名するとすれば、そのための原則を作る必要があり、石刻の種別とその呼称ということがさらにその前提となるのだが、これは石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとにすべて意見が異なっていると言っていいほどだから、それはそれで一朝一夕にできることではない。

聖旨・詔勅などの命令文に関しては、石刻自体には特段の名前を付されていないことが多く、せいぜい「聖旨」などの語が額に刻されている程度である。したがって、どのように命名するかについての原則を考える必要がある。蔡美彪氏の『八思巴字碑刻文物集釈』が公刊されたのを機会に、表記の原則の再検討をおこない、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに入れるようにしてみたのだが、まだすっきりとしない。なお、1つの石に複数の命令文が刻されている場合、資料集によっては、命令文ごとにそれぞれの日付の箇所に着録するものもあるが、この目録は石刻拓影についての目録なので、可能な限り石単位にするようにした。ただし、典拠となった資料集の編集方式の関係で徹底できていないものもある。そのほか、漢字以外の文字が併刻されている場合もあるが、それらについては、なるべく注記で記述することとした。

ところで、今回で年記のある元代拓影については一応完了した。このシリーズはここで終わりたいと思う。年記のない石刻のそれぞれについて考証を加え、表のしかるべき箇所にはめ込んでいく作業に見通しをつけることは前途ほど遠いからである。一方、かねて課題としている報刊や新地誌所載の新出石刻については、まだ十分とはいえず、公開できるレベルにたどりつかないままである。石刻書所載の資料については、過去に公表した部分についての補正、とくに新史料の追加を個人のデータとしてはおこなっており、通算してみると、補正したものを含めれば現時点で1500件ちかい資料をリストアップすることができている。とはいうものの、近年の石刻史料集の刊行は、北京の潘家園へ行けば必ず未知の石刻書を見かけるように、発行母体や量の面で増加し、さらには資料集としての質もアップしていて、個人での作業でカバーするには限界を感じている（新刊の石刻書一般については、森田の『史料通信』での連載参照）。ともあれ、本稿刊行ののちに、記年のある全石刻を対象とした補正版公開のための作業に入る予定である。

目録凡例

以下、目録の各項目ごとに凡例を掲げる。なお、石刻の配列順は、日まで比定できるもの、旬まで、月まで、年まで、の順とする。また、上述のように第4回から補訂した箇条には★を付した。

名称

次の順序で採用する。 首題、額、掲載文献の命名、森田の命名。 ただし、掲載文献の命名に森田が異論を有する場合は、独自に命名した場合もあり、掲載書の命名と一致しないこともある。

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額のない石刻の方が多く上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱などを（）に入れて付記する。

聖旨などの命令文については、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに加え、「元氏県開化寺虎児年聖旨碑」のように表記する。石刻の額や首題が、たんに「聖旨」などでなく、具体的な内容を有する場合はそれを用いる。★

摩崖については、人物名を主とし、必要に応じて年代や小地名を付す。★

名称根拠

名称の欄に記した石刻の名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合はその略称を用いた。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

日付

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする(追刻は除く)。墓誌、墓碑の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。したがって、掲載文献と日付の異なるものもある。

命令文などを刻したもので、立石の日付が不明確な場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものを採り、各命令文の年次を注記に掲げる。また、命令文などに見られる十二支のみの表記については、判断の根拠を注記に記す。★

干支による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの(孟春、仲夏、望日、既望、重午、重陽など)は、数字に換算して表記する。ただし、問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

年によって動くもの(二十四節気など)は、それを表示する。

たんなる重刻(たとえば、元碑を明の萬暦年間に再刻したもの)については、その石刻の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。過去の朝代の石刻を元朝時代になって重刻したものについては、重刻された時期に配列し、その旨を注記する。

日付根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。「立石」、「建」、「記」、「耐」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をなるべくそのまま用いることを原則とした。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、拓影掲載文献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

所在地

原則として拓影掲載文献の表記に従い、省名(北京・上海を含む)と2字表記の県名(北京などは区名)で掲載する。この場合、現在の市名もふくんで新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。一部、石刻の集中する史蹟の名を付している。ただし森田の関心による選択なので、恣意的になっている。

所載

複数の文献に所載されている場合は、採録文献の対象範囲の広い文献から並べる。文献名につ

いては略号を使用し、文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。「東洋」については、最後とする。また、これまで掲載してきた「菁華」については、閲覧上の問題があり、取り扱いを変えたことは後述する。

注記

石刻の内容が数載にわたる場合、碑陰、碑側にも内容がある場合などは、ここに注記する。★
いずれの面が碑陽、碑陰なのか判別しがたい事例もあるが、引用文献に従う。★
「法帖」と注記したものは、内容よりも筆跡を鑑賞するために刻された石刻と見做されるものである。ただし、これは森田の主観的判断によるものである。★

その他

文字は常用漢字を用いることとする。

拓影出典目録

※使用した略称のあいうえお順とし、数字の種類を注記した。今回収録すべき石刻のなかった文献や新たに採録した文献の記号は、作業が煩瑣になるため今回はおこなっていない。

- 安陽 安陽県古碑刻集萃 安陽県老幹部局他 2004 頁
于右任 西北民族大学図書館于右任旧蔵金石拓片精選 上海古籍出版社 2008
 図版番号
蔚県 蔚県碑銘輯録 広西師範大学出版社 2009 頁
雲居 雲居寺貞石録 北京燕山出版社 2008 頁
永嘉 永嘉金石志 中華書局 2011 頁
塩池 河東塩池碑匯 山西古籍出版社 2000 巻頭グラビア（頁なし）
河間 河間金石遺録 河北教育出版社 2008 頁
華山 華山碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1995 図版番号
嘉定 嘉定碑刻集 上海古籍出版社 2012 頁
河東 河東水利石刻 山西人民出版社 2004 1件のみ
漢中 漢中碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1996 図版頁
翰墨 翰墨石影 河南省文史研究館蔵搨片精選 広陵書社 2003 冊・頁
咸陽碑刻 咸陽碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2003 図版番号
咸陽碑石 咸陽碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1990 頁
沂山 沂山石刻 山東友誼出版社 2009 頁
玉溪 玉溪碑刻選集 雲南人民出版社 2009 頁
衢州 衢州墓志碑刻集録 浙江人民美術出版社 2006 頁
慶陽 慶陽金石碑銘菁華 甘肅文化出版社 2013 図版番号

- 滎陽 滎陽文物志 中州古籍出版社 2011 頁
洪洞 洪洞金石録 山西古籍出版社 2008 頁
高平 高平金石志 中華書局 2004 頁
故宮墓誌 故宮博物院藏歷代墓誌匯編 2010 紫禁城出版社 図版番号
戸県 戸県碑刻 三秦出版社 (陝西金石文献匯集) 2005 図版頁
固原 固原歴代碑刻選編 寧夏人民 2010 石刻番号
湖湘 湖湘碑刻 湖南美術出版社 2009 冊・頁

2は活溪卷とある

- 蔡11 八思巴字碑刻文物集積 中国社会科学出版社 2011 連番
拓本の所蔵者や典拠が記されているものについては、それを注記した
濟寧墓誌 濟寧歴代墓誌銘 齊魯書社 2011 頁

拓影は巻頭の写真のみ (元は1)

- 三峡 長江三峡工程水庫水文題刻文物図集 科学出版社 1996 図版番号
三晋安沢 三晋石刻大全臨汾市安沢県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋孟県 三晋石刻大全陽泉市孟県卷 三晋出版社 2010 頁
三晋塩湖 三晋石刻大全運城市塩湖区卷 三晋出版社 2010 頁
三晋炎帝 三晋石刻大全長治市炎帝碑林卷 三晋出版社 2012 頁
三晋堯都 三晋石刻大全臨汾市堯都区卷 三晋出版社 2011 頁
三晋曲沃 三晋石刻大全臨汾市曲沃県卷 三晋出版社 2011 頁
三晋孝義 三晋石刻大全呂梁市孝義市卷 三晋出版社 2012 頁
三晋洪洞 三晋石刻大全臨汾市洪洞県卷 三晋出版社 2009 頁
三晋侯馬 三晋石刻大全臨汾市侯馬市卷 三晋出版社 2011 頁
三晋高平 三晋石刻大全晋城市高平市卷 三晋出版社 2010 頁
三晋古交 三晋石刻大全太原市古交市卷 三晋出版社 2012 頁
三晋渾源 三晋石刻大全大同市渾源県卷 三晋出版社 2013 頁
三晋左雲 三晋石刻大全大同市左雲県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋左権 三晋石刻大全晋中市左権県卷 三晋出版社 2010 頁
三晋沁水 三晋石刻大全晋城市沁水県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋尖草 三晋石刻大全太原市尖草坪区卷 三晋出版社 2012 頁
三晋沢州 三晋石刻大全晋城市沢州県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋長子 三晋石刻大全長治市長子県卷 三晋出版社 2013 頁
三晋長治 三晋石刻大全晋城市長治県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋武郷 三晋石刻大全長治市武郷県卷 三晋出版社 2013 頁
三晋浮山 三晋石刻大全臨汾市浮山県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋平順 三晋石刻大全長治市平順県卷 三晋出版社 2013 頁
三晋陽城 三晋石刻大全晋城市陽城県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋陵川 三晋石刻大全晋城市陵川県卷 三晋出版社 2013 頁

- 三晋靈丘 三晋石刻大全大同市靈丘県卷 三晋出版社 2010 頁
三晋黎城 三晋石刻大全長治市黎城県卷 三晋出版社 2012 頁
三晋靈石 三晋石刻大全晋中市靈石県卷 三晋出版社 2010 頁
山西 山西碑碣 山西人民出版社 1997 頁
山東青州 山東道教碑刻集 青州昌樂卷 齊魯書社 2010 頁
山東博山 山東道教碑刻集 博山卷 齊魯書社 2013 頁
山東臨朐 山東道教碑刻集 臨朐卷 齊魯書社 2011 頁
四川 四川歴代碑刻 四川大学出版社 1990 図版番号
司馬 司馬光塋祠碑誌:図録与校釈 文物出版社 2004
輯繩 洛陽出土歴代墓誌輯繩 中国社会科学出版社 1991 頁
寿陽 寿陽碑碣 山西古籍出版社 2007 頁
三晋石刻大全の寿陽卷は、元については同内容
紹興 紹興図書館蔵地方碑拓選 西冷印社出版社 2007 頁
常熟 常熟碑刻集 上海辞書出版社 2007
拓影は巻頭グラビアのみ（2件のみ）
徐国衛 北京大学図書館蔵徐国衛捐贈石刻拓本選編 上海人民出版社 1987 図版番号
新出 新中国出土墓誌 図版番号
「新出陝西2」のように巻名を表示した
瀋陽 瀋陽碑誌 遼海出版社 2011 頁
鄒城 鄒城碑刻 中国文史出版社 2012年 頁
図志 北京元代史蹟図志 北京燕山出版社 2009年 頁
精粹 北京文物精粹大系・石刻卷 北京出版社 2004 図版番号
西南 中国西南地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 1998 冊・頁
西北 中国西北地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 2000 冊・頁
西北民族 西北民族碑文 甘肅人民出版社 2001
録文は多いが（転載を含む）、拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし、元は2件）
陝西 陝西碑石精華 三秦出版社 2006 図版番号
草原 草原金石録 王大方、張文芳著 文物出版社 2013 頁
蘇州 蘇州博物館蔵歴代碑志 蘇州博物館編 文物出版社 2012 頁
泰山 泰山石刻大全 齊魯書社 1993 冊・頁
大名 大名石刻選 線装書局 2011 頁
涿州 涿州貞石録 北京燕山出版社 2005 頁
涿仏 古涿州仏教刻石 河北教育出版社 2007 頁
長安 長安新出墓誌 文物出版社 2011 頁
澄城 澄城碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2000 頁
長治 長治金石萃編 山西春秋電子音像出版社 2006 頁
重陽 重陽宮道教碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1998 図版頁

- 天一 天一閣 明州碑林集録 上海古籍 2008
拓影は巻頭グラビアのみ(頁なし)
- 天柱 天柱山谷流泉石刻 安徽美術出版社 2011 頁
- 道家 道家金石略 文物出版社 1988 頁
- 東洋 東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録 東洋文庫 2002 連番
図版が掲載されているわけではないが、国内で閲覧可能なため収録する
- 南京 南京歴代碑刻集成 上海書画出版社 2011 図版番号
- 寧夏 寧夏歴代碑刻集 寧夏人民 2007 頁
- 寧波 寧波歴代碑碣墓誌彙編 上海古籍出版社 2012
- 柏郷 河北柏郷金石録 文物出版社 2006 頁
- 柏克 柏克萊加州大学東亜図書館蔵碑帖 柏克萊加州大学東亜図書館 2008 図版番号
- 白話 元代白話碑集録 科学出版社 1955 図版番号
- 碑帖拓本 中国古代碑帖拓本 香港中文大学文物館 2001
- 碑林 西安碑林全集 広東経済出版社 1999 冊・頁
- 武夷 武夷山摩崖石刻 大衆出版社 2007 頁
- 福州十邑 福州十邑摩崖石刻 福建美術出版社 2008 頁
- 富平 富平碑刻 三秦出版社(陝西金石文献匯集) 2013 図版頁
- 法源 法源寺貞石図録 五洲伝播出版社 2006 頁
- 邙洛 邙洛碑誌三百種 中華書局 2004 図版番号
- 北京文研 北京市文物研究所蔵墓誌拓片 北京燕山出版社 2003 頁
- 北京摩崖 北京地区摩崖石刻 学苑出版社 2010 頁
- 北図 北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編 中州古籍出版社 1989-91 冊・頁
ただし今回の対象となるのは第50冊の後半
- 濮陽 濮陽碑刻墓誌 中州古籍出版社 2003 石刻番号
- 菩提 菩提達磨嵩山史蹟大観 三宝書院 1981再版 頁
- 保定 保定名碑 河北美術出版社 2002 頁
- 満城 満城県歴代碑刻輯録 河北教育出版社 2011
- 名碑 洛陽名碑集積 朝華出版社 2003 頁
- 洛陽新獲 洛陽新獲墓誌統編 科学出版社 2008
- 羅蔡 八思巴字与元代漢語(増訂版) 中国社会科学出版社 2004 図版番号
掲載の拓影は北京大学図書館所蔵のもの(補を除く)
- 蘭州 蘭州碑林蔵甘肅古代石刻拓片菁華 甘肅人民美術出版社 2010 頁
- 遼金元 北京遼金元拓片集 北京燕山出版社 2012 頁
- 遼南 遼南碑刻 大連出版社 2007 頁
- 遼寧 遼寧省博物館蔵墓誌精粹 中教出版 2000 図版番号
- 麗水 麗水宋元墓誌集録 浙江古籍出版社 2013 頁
- 歴代 中國歴代墓誌選編 天津古籍出版社 2000 頁

楼観 楼観台道教碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1998 図版頁

勞山 嶗山碑碣與刻石 青島出版社 1999 頁

隴西 隴西金石録 甘肅人民出版社 2011 頁

本書の写真には小さくかつ不鮮明なものも多いが、貴重な資料なので録文を参照して表に加えた

廬山 廬山歴代石刻 江西美術出版社 2010 頁

拓影画像データベース

人文 京都大学人文科学研究所蔵石刻拓本資料

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

京都大学人文科学研究所附属漢字情報センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでも話題としてきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

碑帖菁華について

前々回まで、中国国家図書館所蔵の所蔵拓本画像データベース「中国碑帖菁華」を対象として採用してきた。ここには、他の資料集には見えないものや、画像の質においてすぐれたものが少なくなかった。しかし、2012年秋ころから日本からの閲覧に不自由が生じはじめた。「いつでも、どこにいても、だれでも」資料が使えるべきだという筆者の理想や、「現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録」という本稿の志向とは合わないので、前回からは採録対象外としている。

追記

この目録は、平成25年度の奈良大学研究助成「元朝順帝期の石刻資料の研究」および、平成25年度～27年度科学研究費基盤研究C「元朝石刻拓影の目録化を通じての中国近世石刻史料学構築の試み」の研究代表者としての、さらには平成23年度～25年度科学研究費基盤研究B「河南・山西地の多民族融合社会史の研究－石刻史料による中国地域社会史解明の試み」（研究代表者村岡倫龍谷大学教授）の分担研究者としての、活動成果の一部である。さらには、過去の奈良大学研究助成や科学研究費などの助成金による奈良大学における石刻文献の集積、あるいは現地調査・国内文献調査の成果が基礎となっている。

キーワード：元朝、石刻、拓本

名称	名称根拠	年代	年代根拠	省	県	所載	注記
升山廉訪使也先不花等題名 代祀北嶽之記	森田	至正11年1月5日	日付	福建	福州	福州十邑113	拓影不鮮明
奉元路円通觀音寺記	篆額	至正11年1月	北図	河北	曲陽	北図50・077	2月に甲寅なし、3月か？
至正十一年進士題名碑	首題	至正11年2月	立石	陝西	西安碑林	碑林030・3007	森田論文参照
皇元大都崇国寺重新修建碑	森田	至正11年2月	内容	北京	東城区	人文230A、東洋2352、2353	
五誓願文	首題	至正11年4月11日	建	北京	西城区	人文231A(陽)、B(陰)	至正11年4月中旬有1日建、碑陰題名
大元易州龍興觀宗支恒産記	北図	至正11年4月15日	誓	雲南	晋寧	北図50・078	「結制日」とあるのを、北図は15日としたか、
瑞岩山里人曹希建等題名	首題	至正11年6月3日	碑陰建	河北	易県	北図50・079(陽)、80(陰)	碑陰：龍興觀正一宗支図
達実帖陸爾代謁孟廟記	森田	至正11年夏	日付	福建	福清	福州十邑139	
重修通女站記	森田	至正11年8月11日	文中	山東	鄒県孟廟	鄒城11	
重建雪山靈芝寺記	首題	至正11年8月	記	甘肅	隴西	隴西85	拓影はほとんど読めず、録文による
□修長生觀碑	首題	至正11年10月27日	立	山東	滕県	北図50・081	
了公和尚行迹殘碑	首題	至正11年冬至日	立石	山西	夏県	山西314	万曆17年重立
重新建殿控塑莊嚴弘像碑記	北図	至正11年12月	北図	北京	西城区	北図50・082	篆額あるも読めず、北図も順天府志による
大元故武節將軍土番等処宣慰使司副使 □□□汪公(舜昌)墓誌	横題	至正11年	撰	広西	桂林	西南11・12	本文は読めない
緊那羅像碑	首題	至正11年	撰	甘肅	漳県	隴西86、西北民族	
論法門人題名	人文	至正11年	人文	河南	登封少林寺	人文232X	河南の地名多し
就公住院重修行跡記	首題	至正12年閏3月	立石	山西	太原	人文233X 三晋尖草坪8	横額「論法門人」、人文は上の陰？とするが、不明、泰安と読める文字あり、日付は「卯十一月上旬吉日」と読める

逍遙園大草堂樓禪寺宗派図	首題	至正12年4月15日	上石	陝西	戸県	戸県56	
雪庵溥光詩碑(一)	戸県	至正12年4月15日	上石	陝西	戸県	戸県57	
雪庵溥光詩碑(二)	戸県	至正12年4月15日	上石	陝西	戸県	北図50・083、西北08・017、戸県58	
重修顯靈王廟之記	首題	至正12年4月	立石	北京	昌平	北図50・084	
宋故正議大夫守尚書左僕射兼門下侍郎上柱國河内郡開國公食邑四千一百戶奕封壹仟伍伯戸贈太師追封溫國公諡文正司馬公神道碑※	首題	至正12年7月	重刊	山西	夏県	山西317(篆額)、318以下本文、司馬	元祐3年碑の重刻
城隍廟記	首題	至正12年8月15日	立石	遼寧	瀋陽	人文235A(陽)、B(陰)、C(陰)、D(陽)、E(陽)、F(陰)、G(額)、H(陰額)、I(陰)、瀋陽7(陽)、8(陰)、東洋2354	
太師右丞相過鄒祀孟子之碑	首題	至正12年8月	文中	山東	鄒県孟廟	人文234X	
大元中山聖廟礼器記	首題	至正12年8月	記	河北	定県	北図50・085	
創建帝師殿記	首題	至正12年	図誌	北京	密雲	図誌38、遼金元107	文中の壬辰を図誌はこの年に比定
代祀北嶽之記	首題	至正13年正月	建	河北	曲陽	北図50・086	
同慶真人門下宮觀綱首名氏	額	至正13年正月	北図	陝西	周至	北図50・087(額)、088(陽)、089(陰)、西北08・018(額)、19(陽)、20(陰)	碑陰：至正十三年春・吉日建
元故從仕郎河間路齊東県尹致仕蔡君天祥(祐)墓誌銘	首題	至正13年3月5日	葬	山東	濟南	濟南10(蓋)、11(誌)	
大元保定路易州創建闕王廟記	首題	至正13年4月15日	記	河北	易県	北図50・090	
大元房山県重修文廟記	首題	至正13年5月	日付	北京	房山	北図50・091	中心部断裂
開化寺被脩聚公和尚塔銘	首題	至正13年7月1日	立石	山西	高平	高平420	右下欠
利心侯神廟碑	首題	至正13年7月	立石	河南	涉県	翰墨7・27	
昨城景臧建皇廟碑銘	首題	至正13年8月15日	建	河南	延津	翰墨7・26	

雲泉普潤禪師隆公之塔	人文	至正13年8月	建	山西	沁陽	沁陽	人文236A(陽)、B(陰)	碑陰：「南無釈迦牟尼佛」七字
烏石山海道都漕運万户李世安等題名	森田	至正13年10月9日	識	福建	福州	福州十邑19	福州十邑19	大物官僚の名前複数
紹興路新城記	紹興	至正13年	立石	浙江	紹興	紹興77	紹興77	
少林亭拙禪師之塔	本文	至正14年2月	建	河南	登封 少林寺	人文237X	人文237X	
重修碑記	首題	至正14年2月	建	山西	孟県	三晋孟県46	三晋孟県46	写真不鮮明
重修元君静志廟碑	篆額	至正14年3月3日	翰墨	河南	沁陽	翰墨7-28	翰墨7-28	翰墨の録文は碑記だが、影印されているのは碑陰の四至題名のみ、碑記の録文なし、日付は録文による
順德路南和県重修東嶽廟碑	首題	至正14年3月20日	立石	河北	南和	北図50・092	北図50・092	
国子生張琰等大雁塔題名	森田	至正14年3月30日	書	陝西	西安	北図50・093、西北08・021	北図50・093、西北08・021	西安慈恩寺雁塔北門
秦王夫人(挾烈真氏)施長生錢記	首題	至正14年3月	日付	河北	正定	北図50・094	北図50・094	
重修寿陽県北山竜王廟記	首題	至正14年4月1日	立	山西	寿陽	寿陽104、三晋寿陽84	寿陽104、三晋寿陽84	
教授題名記	横題	至正14年4月1日	題	江蘇	嘉定	嘉定282	嘉定282	題名は21年9月まであり
静楽処士馮公(善)墓誌	横題	至正14年4月14日	誌	河南	濮陽	濮陽14	濮陽14	
澄城県重修顯聖大王廟記	首題	至正14年6月	欠	陝西	澄城	澄城16	澄城16	六月辛未二十、以下読めない
府城玉皇廟門墩石刻題記	三晋 沢州	至正14年6月	欠	山西	沢州	三晋沢州109	三晋沢州109	写真不鮮明
至正14年崇国寺聖旨碑	森田	至正14年7月14日	文書	北京	西城区	人文238A(陽)、B(陰)	人文238A(陽)、B(陰)	碑陰：大都南城崇国寺□住庄田事産記(首題)、日付部分剥落
大都路達魯花赤忽篤魯拜亞聖廟記	森田	至正14年7月23日	文中	山東	鄒県 孟廟	人文239X、鄒城63	人文239X、鄒城63	
高唐州武城県何宅寄葬李氏之墓	本文	至正14年9月23日	故	北京	東城区	図誌168、遼金元82	図誌168、遼金元82	
故盛氏子(士周)曠誌	蓋	至正14年9月	葬	不明	不明	北図50・095	北図50・095	後半部読めない
大元朔州林衙崇福寺量公禪師施財遺跡記	首題	至正14年10月6日	立石	山西	朔州	東洋2355	東洋2355	

敕修妙覺禪院碑記	首題	至正14年10月15日	欠	陝西	咸陽	咸陽碑刻77	下部数字分欠
房山景大安山龍口觀勅建黑龍潭廟記	首題	至正14年10月15日	不明	北京	房山	北図50・096(陽)、097(陰)	碑陰題名
牛山土主忠惠王碑	篆額	至正14年	碑林	陝西	西安碑林	碑林030・3010	碑陰：重修省府石銘
張士明遊靈巖寺詩	森田	至正15年1月1日	立石	山東	長清靈巖寺	人文240X、北図50・108 北図は山左により至正16年3月とする	
勅授鶴慶路照磨楊伯口墓誌	首題	至正15年1月17日	立石	雲南	大理	大理1・77(陽)、78(陰)、西南15・43(陽)、44(陰)	
敕建廊廡之記	首題	至正15年2月11日	立石	山西	沢州	三晋沢州	至正乙未二月哉生明越十有一日辛未
宣聖五十四代衍聖公墓碑(孔思晦)	人文	至正15年2月	人文	山東	曲阜孔林	人文241X	
也先帖木兒墓石	森田	至正15年3月	立石	北京	不明	図誌216	1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土
社神之位	本文	至正15年	刊	山西	洪洞	洪洞66(陰陽)、三晋洪洞89(陽)	陰は施者名、次の櫻神と対と考えられる
櫻神之位	本文	至正15年3月	刊	山西	洪洞	洪洞67(陰陽)、三晋洪洞90(陽)	陰は施者名、至正15年3月日とあり
曲陽県尹何氏墓石	森田	至正15年4月5日	立石	河北	無極	北図50・098	全文：大元勅授敦武校尉曲陽県尹何公之墓、北図は常山真石志で何伯川とする
江東道憲司題名殘碑	北図	至正15年4月8日	北図	安徽	宣城	北図50・099	殘石2件
靈濟廟記	首題	至正15年6月7日	終	広西	興安	北図50・105、西南5・74	文中に「成終六月甲子」と読める箇所あり
題漢淮陰侯廟二章	首題	至正15年6月15日	北図	河北	獲鹿	北図50・101	日付部分薄くて読めず
大奉国寺田記	首題	至正15年6月	立石	遼寧	義県	北図50・102(額)、103(陽)、104(陰)、東洋2356(陽陰額)	碑陰四至
保定路総管府題名之記	首題	至正15年11月11日	立石	河北	保定	保定104	1986年出土
蒲城王氏祠堂碑銘并序	首題	至正15年11月11日	立石	陝西	蒲城	北図50・107、西北08・022	
七仏祖師堂記	篆額	至正15年11月15日	立石	山西	黎城	三晋黎城37	

杭州路重建廟学之碑	首題	至正15年	立	浙江	杭州	東洋2357	
有元故承務郎涪寧路軍父長尹兼管本県諸軍興魯勸農事知河防事李侯(熙)墓誌銘	首題	至正16年 1月	日付	河南	内黄	新出河南1-42	
蔚州靈丘県大靈光普照覺山寺惠公(演惠)塔記	首題	至正16年 3月20日	立石	山西	靈丘	三晋靈丘33	拓影不全、日付、首題部分なし
靈巖寺傳序詩刻	森田	至正16年 3月	北図	山東	長清	北図50・109	拓影にある最新の日付は丙申(16年)3月、上と一連?
長寧靈心聖井行祠題詩碑	三晋 黎城	至正16年 4月中旬	立石	山西	黎城	三晋黎城39	
宣聖五十二代孫墓碑(孔之谷)	本文	至正16年 4月	日付	山東	曲阜 孔林	人文242X	
大元牌敦武校尉軍民万户府百夫長唐兀公(闕馬)碑銘并序	首題	至正16年 6月	立石	河南	濮陽	濮陽15	
大元梁國文正何公重規易州龍池廟碑銘并序	首題	至正16年 7月 1日	立石	河北	易県	北図50・110(陽)、111(陰)	碑陰に続く
藏山祠記	首題	至正16年 8月 1日	誌	山西	孟県	三晋孟県48	「藏」の上に字があるようにも見える。「至正十六年歲次丙申南呂月己酉朔己酉日丙時」とあり、三晋は7月とするが8月
趙氏墓碑殘碑	森田	至正16年 8月	欠	内蒙	上都	草原72	至正丙申十月、全体は剥落で読めない
王家祖師雪庵塔銘	題額	至正16年10月	不明	雲南	昆明	北図50・112	写真不鮮明で録文による、碑陰題名
創修仁壽山普光禪院功德碑	隴西	至正17年 1月□日	立石	甘肅	隴西	隴西88(碑陽写真)	写真不鮮明で録文による、碑陰題名
光宅宮常住田宅記	記文 首題	至正17年 2月	立石	山西	臨汾	三晋堯都53	上載中統4年6月聖旨、中載記文、下載境内図
安卜顔帖木見公塋墓碑	図誌	至正17年 3月 8日	立石	北京	不明	図誌213	本文：故奉訓大夫東平路同知安卜顔帖木見公之塋域
代祀之碑	篆額	至正17年 3月	立石 併書	遼寧	北鎮	東洋2358	碑陰題名
開元寺開堂疏	北図	至正17年 5月	疏	河北	易県	北図50・113	

師天堂曼成	首題	至正17年10月	鐫	陝西	西安碑林	北図50・114、西北08・023、碑林030・3014	詩 本文末に至正丁酉夏とあり、最後に十月初吉鐫とある
香巖寺功德記	額	至正17年	不明	北京	密雲	図誌50、遼金元111	図誌録文は1行目に碑名を読むが拓影はない、また至正しか読んでいない、遼金元は17年と読める、碑陰題名
楊世映？題名	森田	至正18年2月8日	文中	山東	泰山	泰山3・453	全文篆字、北図の日付は據古録による
理公巖記	北図	至正18年2月23日	北図	浙江	杭州	北図50・115	首題部分写真不鮮明、日付は録文による
鄭宣慰(溍)活民紀功碑	篆額	至正18年4月	立石	山西	沢州	三晋沢州112	録文不完全、日付部分(大元国至正十八戊戌五月後旬甲子日)は録文にのみあり、拓影に見えず
勅賜天台山恵日禪院	篆額	至正18年5月27日	録文 參照	山西	石城	三晋平順41	篆額：大元宸命、上載至正元年6月聖旨、中載至正11年12月聖旨八漢、下載至正18年8月聖旨(授焦德潤真人)
重陽宮聖旨并授焦德潤真人勅	北図	至正18年8月	文書	陝西	周至	北図50・117、羅蔡19(3載)、蔡11・17(北大拓)、西北08・024、陝西233、重陽47	戊戌8月とあり
金粟道人(顧阿瑛)小像	首題	至正18年8月	造	江蘇	嘉定	嘉定1049	日付部分不鮮明
海寧州安民碑	首題	至正19年5月	日付	浙江	海寧	北図50・119	三晋は洪律とする
國鄉県北上郝村雜相寺伝戒大師洪津塔銘	首題	至正19年8月	立石	山西	武鄉	三晋武鄉61	
烏石山南台群公題名	森田	至正20年4月25日	識	福建	福州	福州十邑20	
黄宗寿等題名	西南	至正20年8月17日	題	広西	柳州	西南5・75	
嘉定州重建儒学記	首題	至正21年2月1日	欠	江蘇	嘉定	嘉定285	剥落が激しく嘉定は「江蘇金石志」で補う
創建神農太子祠并子孫殿誌	首題	至正21年2月□日	立石	山西	高平	高平グラビア、11	グラビアの写真の方が鮮明、日付は傍が走るが八か、録文は名前の最後を記にする
平江路総管周候興学記	首題	至正21年3月16日	立石	江蘇	呉県	北図50・120	
前上党県遼魯花赤忽都帖木兒德政記	首題	至正21年3月	立石	山西	長治	長治255、三晋長治61	
瑞岩山福建行省理問官文殊海涯等題名	森田	至正21年3月	誌	福建	福清	福州十邑140	
塩州忽都帖木兒禱雨獲応記	首題	至正21年8月	立石	山西	晋城	北図50・121	

静江路新城碑陰記	北図	至正21年11月	記	廣西	桂林	北図50・122、西南5・76	篆額首題とも「碑陰記」、日付部分不鮮明
京兆郡夫人(高葉師)墓誌銘有引	大理	至正21年12月	文中	雲南	大理	歴代53、54(陰)、西南15・35、大理1・79、80(陰)	没年は元統元年
大元肅州路也達魯花赤世襲碑	蘭州	至正21年	下欠	甘肅	酒泉	蘭州72(碑陽)、73(碑陰)	碑陽漢字、碑陰回文、至正□歳次辛丑まであり
婦陽馮王朝詩	人文	至正22年3月22日	題	山西	夏泉	人文243X	
重修開山祖師(明謙)舍利宝塔並行業記	首題	至正22年3月	撰	雲南	昆明	北図50・123	
緬建官水磨記	横題	至正22年4月	山西	山西	繁峙	山西326	日付部分不鮮明「二十二年」まで見える
石溪和尚(義瓊)道行碑銘	篆額	至正22年4月	北図	陝西	西安碑林	北図50・124、西北08・025、碑林030・317	首題：大元(12字欠)和尚瓊公道道行碑、日付不鮮明、四月までは見える、碑林のみ額あり
立廟碑記	首題	至正22年5月1日	立石	山西	侯馬	三晋侯馬35	唐太宗廟
天詔加封祖真之碑	篆額	至正22年5月上旬	重立	甘肅	隴西	隴西95	97Dに別面の聖旨写真、小さくして見えないが、至元6年正月1道、至大3年2月3道
竜王感応之記	首題	至正22年6月	北図	山西	晋城	北図50・125	録文による
重修潔惠侯廟記	首題	至正22年8月10日	日付	山西	靈石	三晋靈石15	
沢州重修旌忠廟記	首題	至正22年8月	不明	山西	晋城	北図50・126	
大元勅賜追封西寧王忻都公神道碑銘	首題	至正22年10月	立石	甘肅	武威	蘭州76(碑陽)、78(碑陰)	碑陽漢字、碑陰回文
呂海月題一線天刻	森田	至正23年春	日付	福建	武夷	武夷142	
帝舜廟碑	首題	至正23年4月	識	廣西	桂林	人文244X、北図50・127、西南5・77	
重修玄都万寿宮碑	隴西	至正23年7月15日	立石	甘肅	隴西	隴西98	写真が小さく、録文による
勅封楊慈榮聖旨碑	北図	至正23年7月21日	文書	陝西	周至重陽宮	人文245X(10月23日とする)、北図50・128、羅蔡(上)、西北08・026、碑林194・0862、重陽54	篆額：宸旨王命、上截至正23年7月聖旨漢八、下截至正23年宛兒年7月21日聖旨漢文

首題	至正23年 8月	建	北京	順義	図志30(陽)、32(陰)、遼金元86	碑陰題名
大中大夫同寮宣徽院事曹公(曹廷瑞)善行記	至正23年 8月	立石	雲南	大理	大理1・81、西南15・45	首題：□楊士墓誌碑銘
弘農氏故千戸護碑	至正23年10月19日	立石	雲南	大理	歴代59、大理1・82、西南15・46	至正壬辰卒の12年後、日付は大理の読み、上上欠で首題は墓誌銘のみ見える、孝先は字
(揚孝先)墓誌銘	至正23年11月	立石	山東	滕県	北図50・129	大呂朔二日
靈芝寺記	至正23年12月2日	北図	不明	不明	北図50・130	北図：墨妙亭玉筍題名之一
張哭永等題名	至正24年春	書	福建	福州	福州十邑21	
烏石山天秀山大字	至正24年4月	立石	河北	安次	北図50・131	
東安州廟学記	至正24年6月	立石	北京	西城區護国寺	人文(陽、陰、額)246A、246B、246C、北図133(陽)、134(陰)	碑陰：節付
大元勅賜大崇国寺贈主空明円証大法師隆安選公(善選)特賜澄慧国師伝戒碑有序	至正24年9月12日	立石	北京	蘇州	蘇州69	額あり、宋の宗室
鄭国公(趙德懋)墓誌銘	至正24年11月25日	葬	江蘇	永泰	福州十邑234	
方広岩王翰鉄壁大字	至正24年冬	日付	福建	西安碑林	碑林030・3020	日付部分見え
重修宣聖廟記	至正24年	録文参照	陝西	永泰	福州十邑234	
方広岩王翰飛佩大字	至正24年	日付	福建	房山	図誌98、遼金元120	
大元勅賜十字寺碑記	至正25年正月	立	北京	北流	西南5・78	西南は曹時春につくる
曹時春題詩	至正25年3月30日	文中	広西	大理	大理1・83(陽)、84(陰)、西南15・47(陽)、48(陰)	題額：左梨釈道宗墓碑銘、首題は宗まで以下欠
故神功梵徳大阿左梨道宗墓碑	至正25年3月	立石	雲南	羅源	福州十邑225	
興祥寺葛仲温等題名	至正25年春	日付	福建	永泰	福州十邑233	
方広岩薛朝晤等題名	至正25年春	日付	福建	沁水	三晋沁水17	
沁水泉竇庄新修仏堂記	至正25年4月1日	立	山西	福州	福州十邑75	
鼓山薛朝晤等題名	至正25年8月1日	日付	福建			

聖水寺葛仲温等題名	森田	至正25年冬	日付	福建	羅源	福州十邑218	写真不鮮明で読めない、すべて永嘉の記事による
蒲瑠鶴陰題刻	永嘉	至正25年	書	浙江	永嘉	永嘉75	
俺普等三人題名	森田	至正26年1月23日	誌	広西	桂林	西南11・13	
稽山吊橋碑	紹興	至正26年2月	訖工	浙江	紹興	紹興82	
大元重修宣聖廟記	首題	至正26年3月	立石	陝西	西安	北図50・135(陽)、136(陰)、西北08・027(陽)、28(陰)	碑陰題名、碑林全集 030・3023 は至元 13 年碑と図版を間違えている、「資料通信 20」森田論文参照
瑞岩山汝南蔣士權等題名	森田	至正26年4月25日	日付	福建	福清	福州十邑139	
興修上官河水利記	首題	至正26年4月	日付	山西	臨汾	三晋尧都56	拓影不鮮明、日付は録文による
鎮越門修城碑	北図	至正26年5月	訖	浙江	紹興	北図50・137	森田には「二月」に見える
瑞岩山里人陳舜玉等題名	森田	至正26年7月2日	日付	福建	福清	福州十邑139	
瑞岩山蕭吉祥等題名	森田	至正26年8月1日	日付	福建	福清	福州十邑141	
順德夫人祠詩刻	森田	至正26年11月	立石	山東	濰博	北図50・138	
雞足山雲版銘文	大理	至正26年	日付	雲南	賓川	大理1・85	
孟廟額設戸計公文	首題	至正26年	日付	山東	鄒鼎孟廟	鄒城13	
大夏太祖欽文昭武皇帝(明玉珍)玄宮碑	首題	大夏天統4年	立石	四川	重慶	西南1・100、四川125	1982発掘、2月没、丙午9月6日葬
至正二十六年国子中選生題名記	首題	至正26年	首題	北京	東城区孔子廟	人文247X、東洋2359	森田論文参照
祭霍山広勝寺明応王祈雨文	首題	至正27年6月	立石	山西	洪洞	三晋洪洞92	日付は「是年六月吉日」、年次は本文による
故智周術妙円鑑大師墓銘	首題	至正27年8月10日	葬	雲南	賓川	大理1・86、西南15・49	不鮮明
瑞岩山榕下徐子正等題名	森田	至正27年10月1日	志	福建	福清	福州十邑140	
大元故宋祿大夫河南江北等處行中書省平章政事追封據忠協議宣力功臣諡康定閔闕公神道碑銘有序	首題	至正27年12月	立石	河南	温県	翰墨7・29	

揚阿端墓碑	西南	至正30年12月□日	日付	四川	西昌	西南3・6	日の部分読めない
段信直宝摩崖碑	大理	至正30年？	文中	雲南	洱源	大理1・93、西南15・56	「大元国・・元帥段信直」と書きはじめる
大盛龍庵大覚禪師(崇照)宝雲塔銘	首題	至正32年4月	立石	雲南	晋寧	北回50・139、大理1・94	全体不鮮明、首題「統置」は読めない
重修陽派興宝寺統置常住記	首題	宣光6年	大理	雲南	大理	西南15・57	日付未確認、碑陰に日付？
普光山智照蘭若記	首題	宣光7年	不明	雲南	通海	大理1・95、西南15・58、玉溪191	
大光明寺住持瑞巖長老智照靈塔銘并序	首題	宣光9年3月清明	不明	雲南	通海	大理1・96、西南15・59	
臨汾县学移建廟堂疏	首題	至正中	三晋 莒都	山西	臨汾	三晋莒都57	拓影不鮮明、下半は助縁題名だけが剥落

